

海外で育つ日本ルーツの 子どもたちの学び

—補習授業校OBOGによる学びのサポート—
(実践報告)



大橋由貴（ダラス補習授業校）、
藻谷ようこ（ポートオブサクラメント補習授業校）、岡村郁子（東京都立大学）

目次

1. 海外で育つ日本ルーツの子どもたち（岡村）
 - 1-1 補習授業校とは
 - 1-2 グローバル人材としての帰国生への期待
 - 1-3 AG+について
2. AG+ OBOG部会の活動
 - 2-1 部会メンバー
 - 2-2 これまでの活動
 - 2-3 情報発信（藻谷）
3. OBOGの力を活用した補習校での実践例
 - 3-1 授業補助や行事の手伝い
 - 3-2 在校生・保護者へのアドバイス・相談対応
 - 3-3 OBOGのネットワーク作り
 - 3-4 講話会（大橋）
 - 3-5 パネルディスカッション・進路指導
4. 実践を通して見えてきたもの・今後の展望
 - 4-1 実践を通して見えてきたもの
 - 4-2 今後の展望



1. 海外で育つ

日本ルーツの子どもたち

岡村 郁子

東京都立大学 国際センター

補習授業校とは

海外に在留する子どもたちが、日本の学習指導要領に基づいた教育を受けることができる
日本人学校・現地校とは異なる、日本の教育を補完する場



目的

- 日本語・日本文化の継承
- 帰国後の学校生活への円滑な適応
- 子どもたちのアイデンティティの形成
- 国際社会で活躍する基盤づくり



主な教育内容

- 国語・算数(数学)を中心とした学習
- 日本の学習指導要領に準じたカリキュラム
- 日本語・日本文化・行事体験
- 在籍校や帰国後の学校との連携



運営の特徴

- 保護者や地域の協力による運営(自主的・ボランティア)
- 日本政府の支援を受けた各地の補習授業校が活動
- 地域や学校ごとに特色ある教育を展開



果たす役割

- 子どもたちの学びと成長を支える場
- 日本と海外をつなぐ架け橋
- 多様な価値観を尊重する国際社会の担い手を育成



補習授業校は、子どもたちの「今」と「未来」をつなぐ大切な学びの場です。





我が国の国際的諸活動の進展に伴い、多くの日本人がその子供を海外に同伴しています。それらの日本人の子供のために、国内の学校における教育に準じた教育を実施することを目的として海外に設置された教育施設です。



文部科学大臣の認定*を受けた在外教育施設(日本人学校、私立在外教育施設)

国内の小学校、中学校又は高等学校における教育と同等の教育を行うことを目的とする全日制の教育施設で、現地の日本人会等が設置した日本人学校と国内の学校法人が母体となって設置した私立在外教育施設があります。国内の学習指導要領に基づき、国内で使用されている教科書が用いられています。

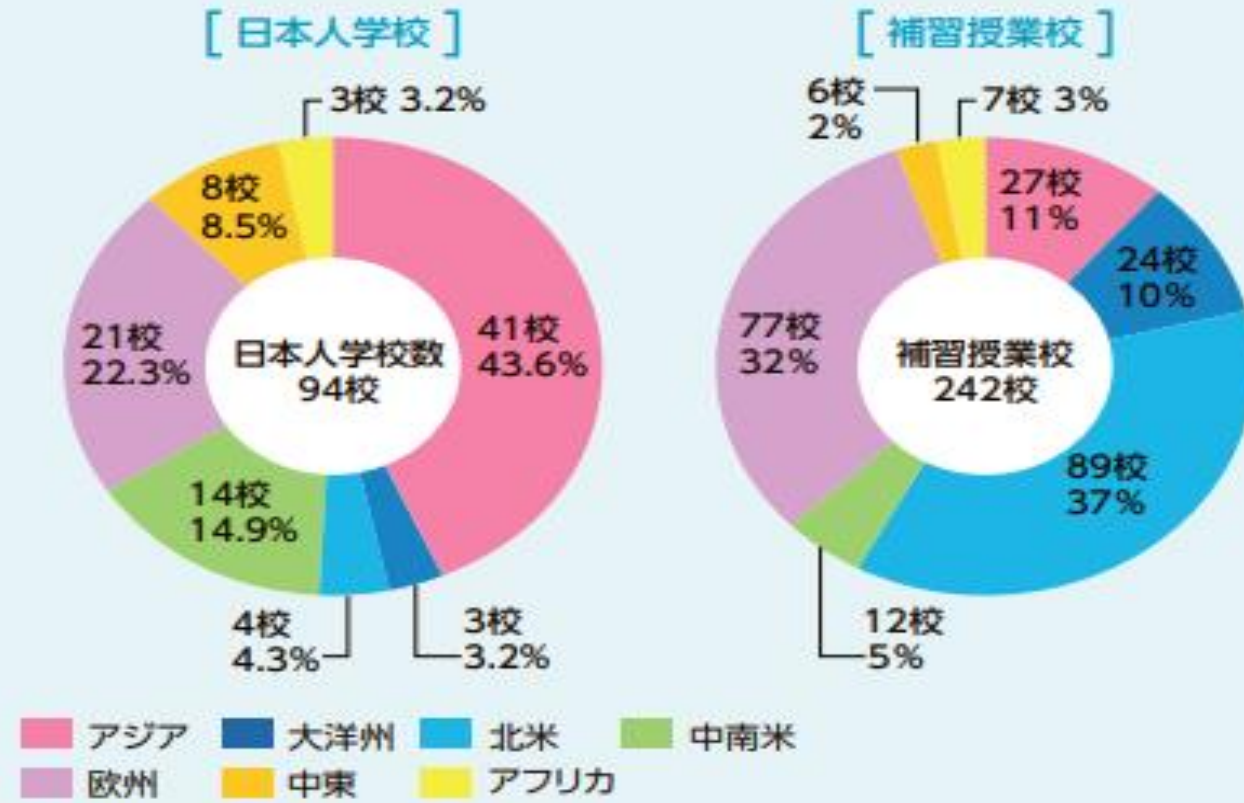
*文部科学大臣が、日本国内の小学校、中学校、高等学校と同等の教育課程を有する旨を認定する制度です。認定を受けた在外教育施設は教育課程を修了した者には、高等学校や大学への入学資格が認められます。

補習授業校

現地の学校や国際学校(インターナショナルスクール)等に通学している日本人の子供に対し、土曜日や放課後などを利用して小・中学校の国語や算数・数学等の授業を行う教育施設です。現地の日本人会等が設置主体となり、国内で使用されている教科書が用いられます。

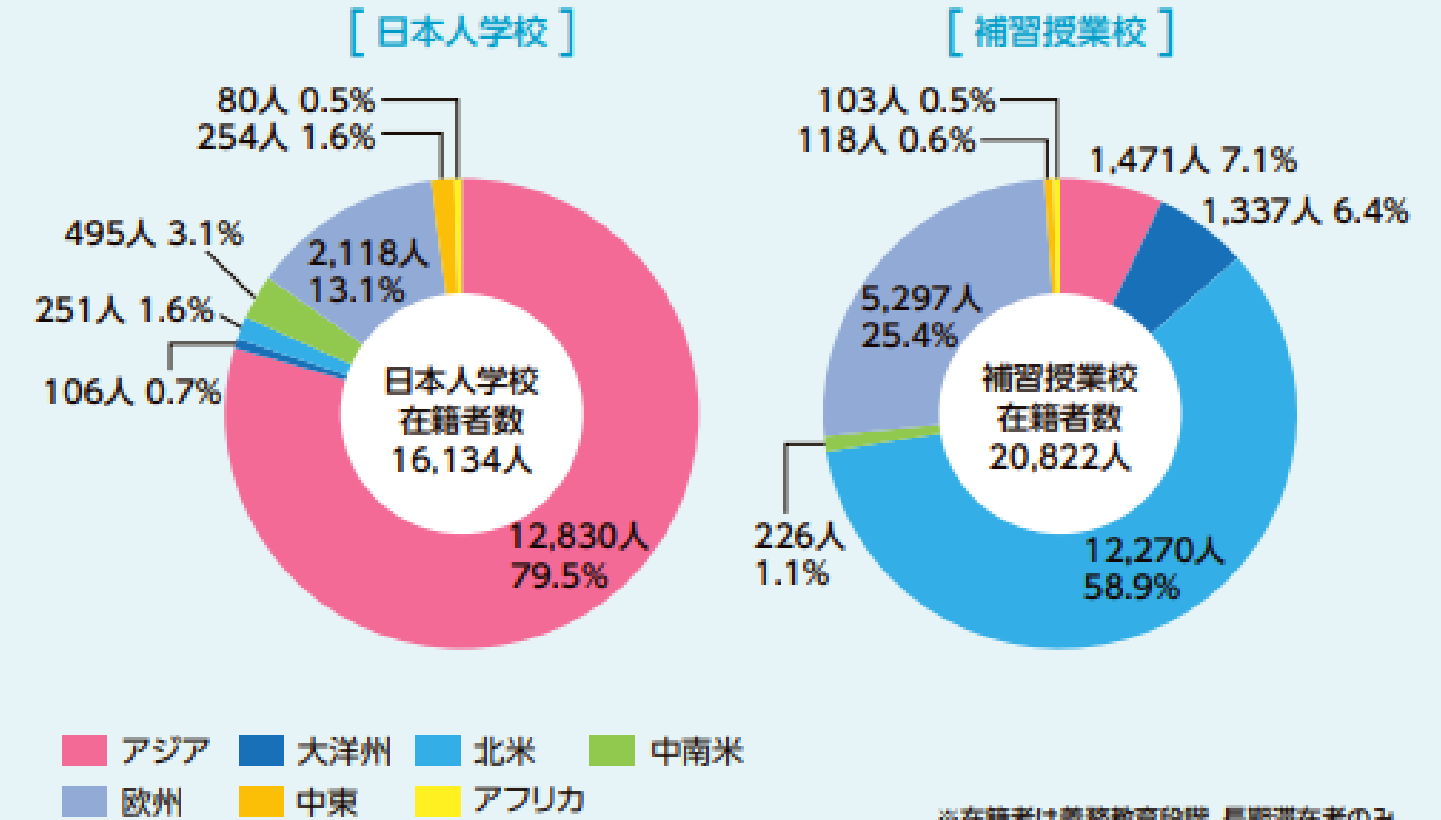
データ1

【地域別学校数】



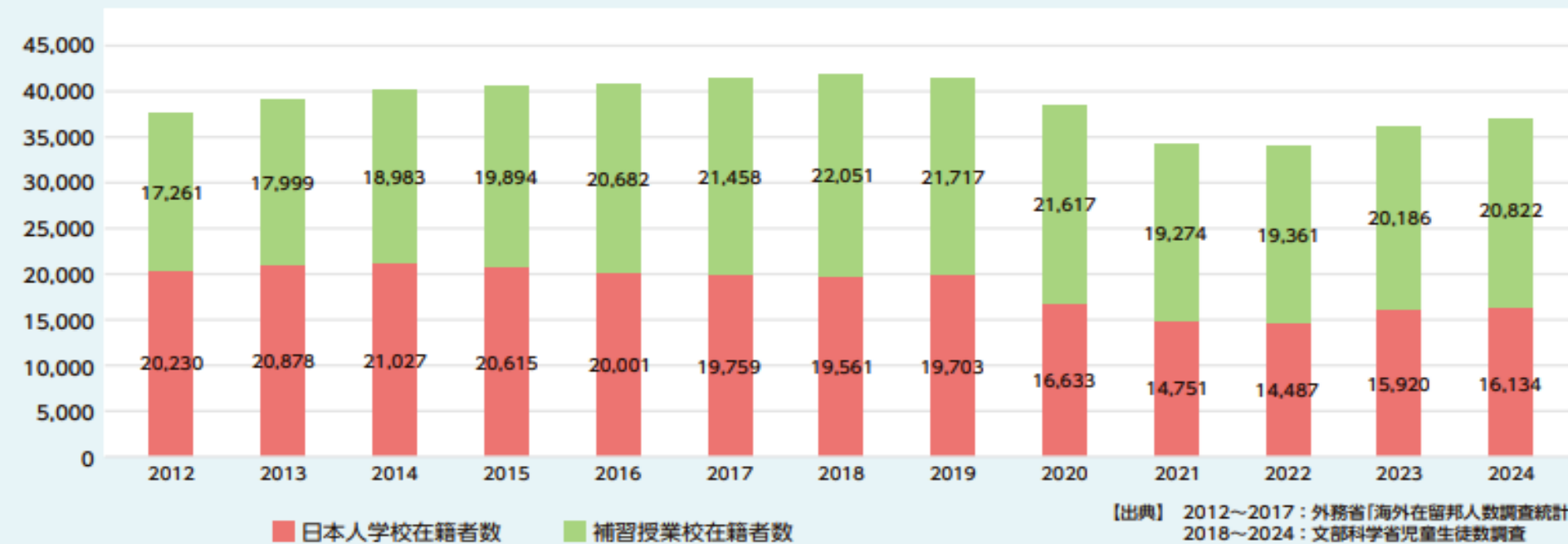
データ3

【日本人学校・補習授業校の地域別在籍者数】



データ2

【日本人学校・補習授業校の在籍者数の推移】



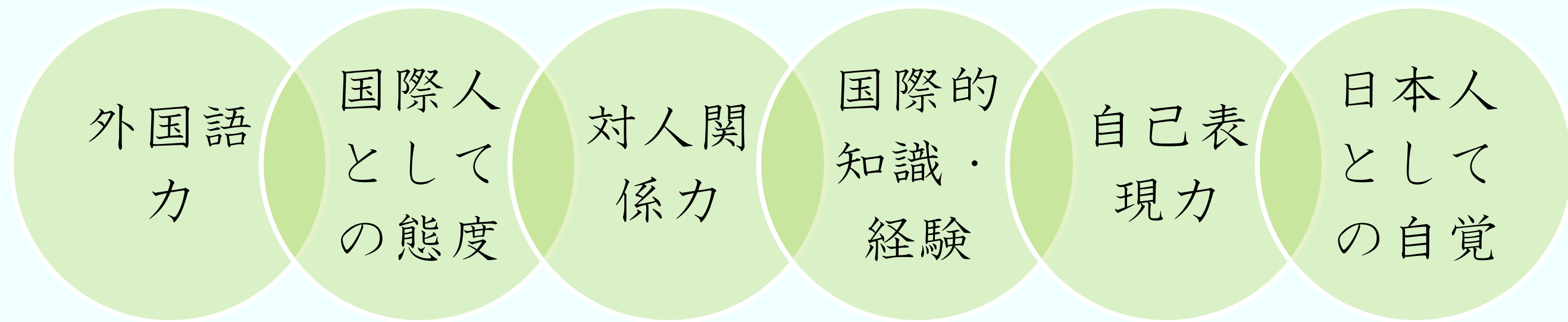
【出典】 2012～2017：外務省「海外在留邦人数調査統計」
2018～2024：文部科学省児童生徒数調査
※在籍者は義務教育段階、長期滞在者のみ

【出典】 文部科学省（2025）海外で学ぶ日本の子どもたち

1-2 グローバル人材としての帰国生への期待

帰国生が身につけた「グローバルな能力」とは？

【2年以上の海外在住経験のある高校生487名を対象にした質問紙調査の結果】
(岡村 2013)



1-2 グローバル人材としての帰国生への期待

「グローバル人材」に求められる資質・能力

- 既成概念にとらわれず、チャレンジ精神を持ち続ける姿勢
- 外国語によるコミュニケーション能力
- 海外との文化、価値観の差に興味・関心を持ち柔軟に対応する能力

【日本経済団体連合会による提言(2011)】

- 語学力やコミュニケーション能力
- 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、
- 責任感・使命感
- 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

【グローバル人材育成推進会議】 (2012) 】

「在外教育施設未来戦略2030～海外の子供の教育のあるべき姿の実現に向けて～」【概要】

(令和3年6月3日策定 在外教育施設の今後の在り方に関する検討会)

1. 本戦略策定の目的

2030年の海外の子供の教育のあるべき姿を実現するため、

- ①「在外教育施設グローバル人材育成強化戦略」(平成28年策定)に基づく取組を発展させる
- ②ポスト・コロナ時代の在外教育施設の果たすべき役割や施策の方向性を明確化する
- ③海外の子供の教育について国家戦略としての支援方策を具体化する

2. 海外の子供の教育を取り巻く環境の変化

- ①海外の子供の数の格段の増大
- ②海外で教育を受ける子供の多様化(永住者、二重国籍、現地国籍者の増)
- ③在外教育施設へのニーズの多様化(「国内同様の学び」+「海外ならではの学び」)
- ④ICT技術の飛躍的な向上
- ⑤在外教育施設における「令和の日本型学校教育の構築」

- ⑥SDGs^(※)を踏まえた海外の子供の教育機会の保障及び「ESD for 2030」を巡る動向
- ⑦新型コロナウイルス感染症等による影響(日本人学校の児童生徒数が減少、今後の企業の海外進出戦略によっては海外の子供が継続的に減少し続ける可能性も視野)

※SDG4:「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」

3. 現状と課題

3.1. 在外教育施設全般

- 現地校・インター校のみに通う子供が増加
→「選ばれる在外教育施設」づくり
- ニーズが多様化(永住者、国際結婚家庭の増等)
→多様なニーズに応える教育実践や学校運営
- 教育や運営を支える体制がぜい弱
→教育や運営に対する支援体制づくり
- 派遣教師の希望者が減少
→教師派遣のインセンティブ向上

3.2. 日本人学校

- 国内水準で見た場合、教員充足率やICT環境が不十分
→国内同等の教育環境整備
- 児童生徒数が減少傾向(コロナの影響で2割減、今後の回復見通しが不透明)
→「選ばれる日本人学校」づくり

3.3. 補習授業校

- 「永住」と「駐在」の子供のニーズの乖離が顕著

→多様性の包摂

- 教師のほとんどが学校採用、研修機会が少ない
- 教師確保と資質・能力の向上

3.4. 私立在外教育施設

- 建学の精神及び海外の立地を踏まえた特色ある教育を実施(高等部中心)
- 過去25年間に18校から7校に減少
→特色ある教育の継続・発展

4. 具体的施策(例)

4.1. 多様な在外教育施設に寄り添い、特色を伸ばす支援の強化

- 「選ばれる在外教育施設」づくりに向けた先導的な特色ある研究開発の支援
・英語力強化、現地との交流強化、イメージ教育、IB教育、ICT教育、幼小中連携、高校教育、外国人児童生徒等への日本語教育、日本文化発信、グローバル教師の育成強化研修プログラムの策定等の推進
- 教育・運営に係る指導・支援のための「在外教育アドバイザー」の委嘱
- 中長期的な教育・運営目標・計画の策定・公表の促進【日本人学校】
- 派遣教師増・GIGAスクール構想の実現に向けた環境整備(国内並び)【日本人学校】

4.2. グローバル教師を育成する好循環の創出・見える化

- 派遣元や教師本人のインセンティブを高める取組の推進
・派遣元の給与負担を更に軽減(委託費による給与負担を高める)
- ・英語力強化、自治体間交流、帰国後の外国人児童生徒に対する指導等、所属教委のニーズに基づく国・地域への派遣をさらに推進
- 研修を更に充実
(補習授業校の教師・講師へのオンライン研修教材の充実等)
- 在外経験の国内への還元(派遣教師の戦略的配置の促進等)

4.3. 安定的・効率的な運営のための支援の強化

- 運営委員会、校長、事務局の役割を明確化し周知
- きめ細かに相談に応じる体制を整備(「在外教育アドバイザー」の委嘱)
- 小規模校が連携して行う教育実践を研究開発(ICTを活用したコンソーシアム化等)

4.4. 多様な関係者間の連携・協働の促進

- 文部科学省、外務省、海外子女教育振興財団、企業団体、国際交流の関係機関、NPO等、在外教育施設を取り巻く関係者間での連携強化(情報の共有化、人事交流の拡充、いじめ問題等への対応等)

4.5. 海外の子供の学びの保障の一層の強化等

- 在外教育施設設置前後のより積極的な支援を実施(「在外教育アドバイザー」の委嘱等)
- 日本に帰国した子供の日本語指導の一層の強化

1-2 グローバル人材としての帰国生への期待

「在外教育施設における教育の振興に関する法律」

令和4（2022）年6月公布・施行

【基本的施策】

1. 在外教育施設の教職員の確保
2. 在外教育施設の教職員に対する研修の充実等
3. 在外教育施設における教育の内容及び方法の充実強化
4. 在外教育施設の適正かつ健全な運営の確保
5. 在外教育施設の安全対策等
6. 在外教育施設を拠点とする国際的な交流の促進等
7. 調査研究の推進等

1-2 グローバル人材としての帰国生への期待

基本方針（令和5(2023)年4月）

在外教育施設における教育の振興の基本的な方向として、

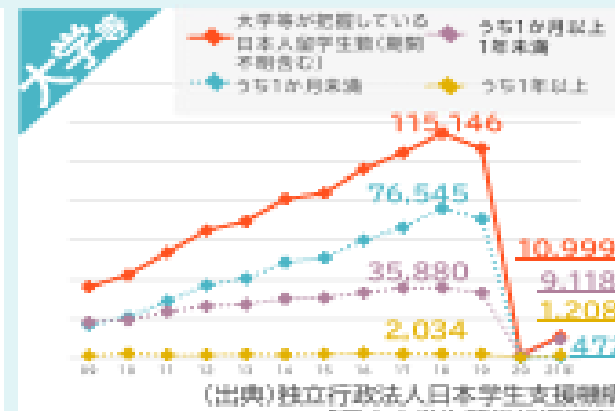
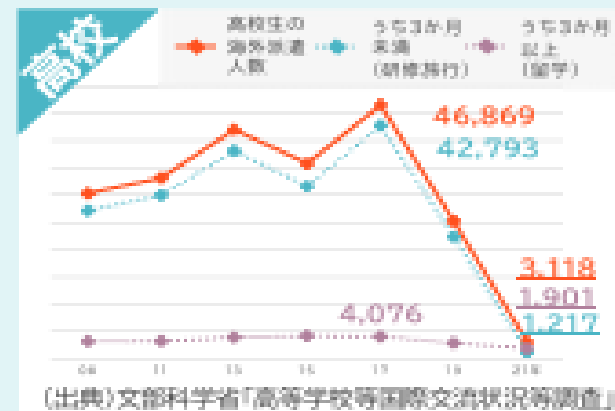
- ・ 在留邦人の子の学びの保障、国内同等の学びの環境整備、
在外教育施設ならではの教育の充実を掲げ、それに向けた施策を提示



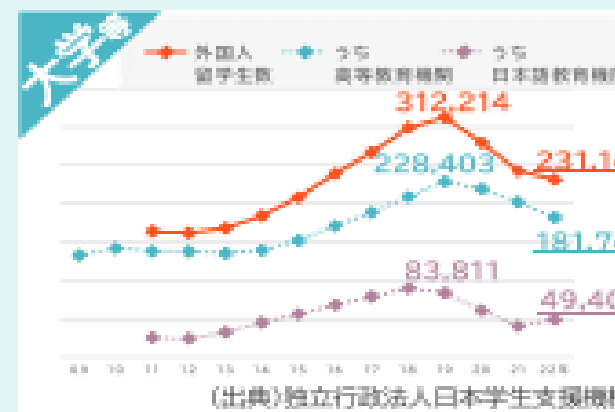
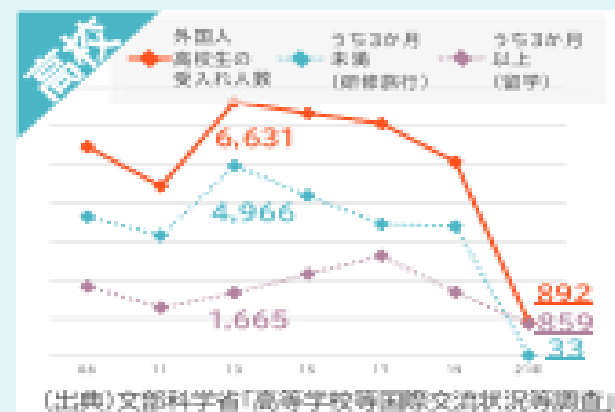
- ・ 文部科学省による日本人学校や補習授業校への教師派遣、
- ・ 義務教育教科書の無償給与、教材整備、端末整備の支援等、
- ・ 優れた教育プログラムへの重点的な支援により特色ある研究開発による教育の高度化を図る
- ・ 「在外教育アドバイザー」を設置して教育・運営に係る指導・助言を行う

データで見る留学 International Exchange at a Glimpse

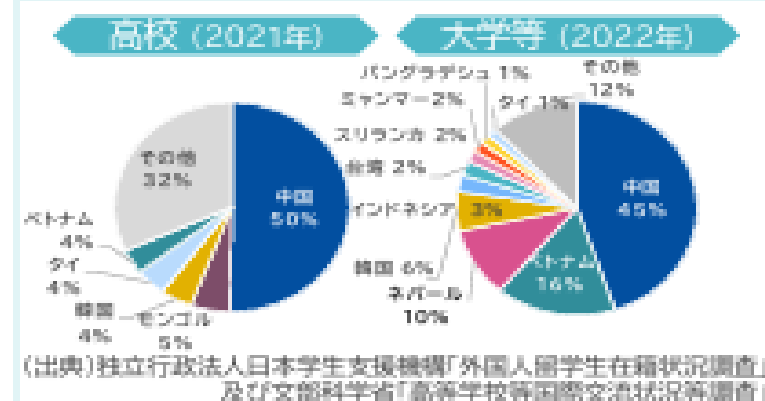
日本人の海外留学



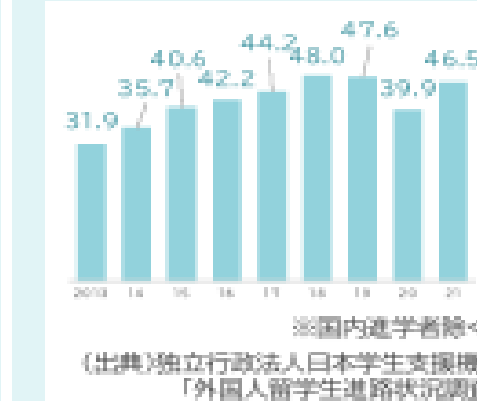
外国人留学生の受入れ



外国人留学生の国別割合



外国人留学生の就職率



せかい×まなびのプラン

「せかい」でまなぶ・「せかい」とまなぶ・「にほん」がかわる

留学・海外経験から日本を変える

世界経済に占める日本のGDPは今後低下し続けるとの予想がある。

IMDによる最新の世界競争力ランキングにおいて、日本は過去最低の35位を記録。

日本の国際共同研究数は少なく、国際頭脳循環の輪に入っていない。

日本のユニコーン企業は7社。アメリカ661社、中国173社、インド70社に大きく遅れる。

各種の英語資格・検定試験において、日本の平均スコアは諸外国の中で最下位クラス。

我が国の成長のためには、世界的な企業をつくる力、国際共同研究を行う力、外交等世界と対等に交渉する力などを有する**グローバルリーダーの育成が急務**であり、その核には、国際対応能力(グローバル・コンピテンシー)の育成があります。

そのため、**より多くの日本人を留学に送り出すことにより、アイデンティティを確立しながら、多様な価値観を持った他者との協働の中で新たな価値を見出し、イノベーションを創り出す経験が必要です。**

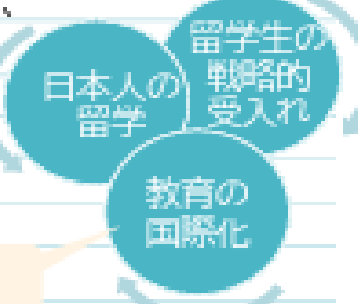
また、我が国の競争力向上のため、優秀な留学生・人材を惹きつけることも不可欠であり、そのためには、**大学の教育研究やそれを支えるキャンパスの質及び魅力の向上が重要**です。同時に、**外国人子弟が安心して学べる環境を提供するなど、誰もが安心して暮らして学び、個々の能力を最大限発揮できる共生社会を構築**することも求められています。

さらに、研究分野では学生に留まらず国際頭脳循環を促進し、優秀な若者が世界で活躍するとともに、優秀な人材を我が国に惹きつけ、**国際的なネットワークを強化**する必要があります。

これを実行するため、**複数年度にわたる支援により、教育及び研究を軸とした国際交流を抜本的に改革し、我が国及び我が国の教育・研究の持続的な発展、成長へと繋げます。**

相互に作用し、循環する、グローバル・エコシステムの構築が不可欠

※本プランの実現に必要な経費について、令和6年度概算要求を予定しています。



3つのアクション

3 Actions

世界と対等に渡り合える人材や、世界に開かれた地域社会を牽引する日本人のグローバル人材を育成するとともに、高等教育の国際通用性・競争力向上や将来の高度外国人材獲得に向け、外国人留学生在安心して日本で学べる環境の整備を行います。

※「●」は予算事業(令和6年度概算要求を予定)、「□」は制度・非予算事業(今後検討)

1 日本からの留学・人材の交流

小中高 国際社会の一員としての意識形成

国際理解を深め、国際社会と向き合う我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養う

- ▶ 児童生徒の英語力向上のための取組を支援
- ▶ 「話すこと」等の発信力向上に向け、AI等デジタルを活用したパフォーマンステストの実施促進
- ▶ 教師の英語力・指導力向上のためのオンライン研修プログラムを実施
- ▶ 中学・高校段階におけるオンライン等を利用した国際交流活動の促進
- 小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業
- 社会総がかりで行う高校生国際交流促進事業

特に高校 留学への意欲喚起・能力育成

左記に加え、より早期からの国際交流経験を通じて、留学への意識を形成

- ▶ 地域での海外経験・留学支援に係る体制づくりや留学コーディネーターの配置などの取組を促進
- ▶ 留学に関する情報発信や関心喚起に向けた取組などを推進し、留学への機運を醸成
- ▶ 生徒同士の人的交流を通して、留学への意欲喚起に寄与
- ▶ 海外との連携も見据えたアントレプレナーシップ教育を推進
- 社会総がかりで行う高校生国際交流促進事業
- トビタテ！留学JAPAN(高校生等コース)
- さくらサイエンスプログラム ● EDGE-PRIME Initiative

大学等 質の高い本格的な留学・人材の交流

留学への機運を醸成した上で、本格的な留学への送り出し・頭脳循環への参画を推進
多様な他者と協働し、新たな価値を生み出す人材を育成

奨学金の充実

- ▶ 留学向け給付奨学金を拡充(中長期留学の重点的促進)
- ▶ 教育委員会と連携した学位取得留学の促進
- ▶ 貸与奨学金の活用と企業等の代理返還制度の利用促進
- ▶ STEM分野の高校生・大学院学生の留学支援の充実
- 海外留学支援制度
- フルブライト奨学金事業(米国大学院での学位取得)
- 教師を志す学生の留学支援

国際頭脳循環

- ▶ 国際共同研究や研究者の派遣・受入れを通じて国際頭脳循環を促進
- ▶ イノベーション創出や国際会議の誘致など研究分野を国際化
- 先端国際共同研究推進事業
- 海外特別研究員事業

民間との連携

- ▶ 民間企業等からの寄付金により奨学金を支援
- ▶ 海外で活躍する日本人等と連携した支援
- トビタテ！留学JAPAN(大学生等コース)
- JASSO貸与奨学金の代理返還制度の活用

2 優秀な留学生や人材の受入れ・定着

小中高 共生社会の基盤構築

外国人子弟等、外国につながるのある児童生徒が安心して学べる社会の基盤を形成

- ▶ 外国人の子供の就学促進、日本語指導が必要な児童生徒に対する指導・支援体制の充実により共修環境を実現
- ▶ 高度外国人材にとって魅力的な教育環境整備のモデルの創出等
- 高度外国人材の教育環境整備に係る調査研究事業【新規要求】
- 高度外国人材子弟受入れ先及び好事例の収集・整理【新規要求】
- 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業
- 外国人の子供の就学促進事業

特に高校 優秀な留学生獲得の基盤形成

左記に加え、より若い層へ日本をアピールすることにより、大学段階での日本留学や優秀な留学生の早期獲得へ繋げる

- ▶ ASEAN、G7などを中心に、より効果的な国際交流の仕組みを構築、留学生と日本人が共同生活を行う機会の創出等
- ▶ 英語で学ぶことができるなど、高度外国人材等の子弟の進学先となり得る国内大学の学科・コース等や留学生のキャリア形成に資する専門学校の情報を収集・発信
- 社会総がかりで行う高校生国際交流促進事業
- アジア高校生架け橋プロジェクト+
- 高校入試での外国人特別枠の設定
- さくらサイエンスプログラム

大学等 優秀な外国人留学生の本格的な受入れ・国際頭脳循環

より多くの優秀な留学生を受け入れ、日本と世界の成長や発展、高等教育の国際通用性・競争力の向上とともに、国際社会に開かれた日本社会を共につくる一員として留学生を受け入れるため、以下に一体的に取り組む

留学生誘致機能強化

- ▶ JASSOに留学生誘致のための情報収集・戦略立案を行う部署を設置
- ▶ 大学、JASSO、在外公館、国際交流基金との一体となった戦略的受入れを行う海外拠点の強化
- JASSO運営費交付金
- 日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業

G7やASEANとの連携

- ▶ G7やASEANとの大学間共同教育プログラム策定支援
- ▶ マレーシア海外分校開校、タイ高等を含めた交流支援
- ▶ 国費留学生の奨学金の重点的強化等
- ▶ 研究分野において、国際共同研究や研究者の受入れを通じて国際頭脳循環を促進
- 大学の世界展開力強化事業
- 国費留学生支援制度
- ASEAN科学技術・イノベーション協働連携【新規要求】
- 先端国際共同研究推進事業
- 外国人研究者招へい事業

奨学金の戦略的活用

- ▶ 多様で優秀な留学生を獲得するため、G7、ASEAN、インド等を中心に重点的拡充
- 外国人留学生奨学金制度

就職・定着支援

- ▶ 日本語教育、キャリア教育、インターンシップを体系的に提供
- ▶ 地域・企業と大学が協働して国際化を図り、留学生が定着しやすい環境を実現
- 留学生就職支援プログラム
- 国際的な大学によるソーシャルインパクト創出支援事業【新規要求】
- 外国人留学生キャリア形成促進プログラム(専門学校)

日本語教育 外国人が日本で学習するための基盤整備

- ▶ 外国人等に対する日本語教育の推進
- 日本語教育機関の認定・日本語教員の登録制度の創設(留学・就労・生活)
- 日本語教育に関する多言語情報発信サイトの公開

3 教育の国際化

小中高 多様なグローバル人材の学習環境整備

- ▶ 高度外国人材の子弟等の学習環境や国際交流活動の推進、高校段階におけるグローバル人材育成に資する拠点校の整備、海外で学ぶ日本の子供たちの学びの充実
- インターナショナルスクールの資源活用【新規要求】
- 国際バカロレアの推進
- WWLコンソーシアム構築支援事業
- 在外教育施設の機能強化

大学等 留学生交流が自然と発生する環境整備

大学の国際化

- ▶ 教育の海外展開による留学生誘致や、地域と共に国際化を図ることによる留学生が定着しやすい環境のソフト・ハード一体の整備
- ▶ 人文・社会科学系大学院の国際ネットワーク形成による海外との学位プログラム実施等を通じて、国際機関など世界で活躍する新たな高度人材養成モデルを構築

- ▶ 国際卓越研究大学を選定し、英語と日本語を共通言語として、海外トップ大学と日常的に連携している世界標準的教育研究環境を目指す。
- ▶ 大学における秋季入学や4学期制など学事暦・修業年限の多様化・柔軟化も推進

- 国際的な大学によるソーシャルインパクト創出支援事業【新規要求】
- 人文・社会科学系ネットワーク型大学院国際連携事業
- 国際バカロレアを活用した大学入試の活用
- 留学生の授業料設定柔軟化や定員管理の弾力化

R6 概算要求 ポイント 重点施策の

1 世界と日本・地域を結ぶ「大学」の国際拠点化の推進

大学内部に留まらない更なる国際化を推進するため、「国際的な大学によるソーシャルインパクト創出支援事業」を新たに展開

2 産官学を挙げた高校・大学段階の留学支援強化

- 日本人の中長期留学のための海外留学支援制度等を大幅拡大
- 貸与奨学金の代理返還制度の利用促進
- 高校生の国際経験のため、「社会総がかりで行う高校生国際交流促進事業」の拡充
- 「トビタテ！留学JAPAN」第2ステージの推進

3 G7、ASEAN等重点地域との戦略的連携強化

- 「大学の世界展開力強化事業」により、G7、ASEANとの共同教育プログラム作成を実施
- G7、ASEAN、インドからの留学生受入れのための奨学金を重点的に拡充
- 「アジア高校生架け橋プロジェクト+」の拡充
- G7、ASEAN等との持続的な成長に向けた科学技術・イノベーション連携の強化

4 国際頭脳循環の促進

先進国やASEAN等との国際共同研究やネットワーク構築への支援を通じ、若手研究者のネットワークを強化。

5 戦略的な国際展開のための情報収集・留学生誘致機能強化

- JASSOの諸外国の情報収集・分析機能の抜本的強化
- 大学、JASSO、在外公館、関係機関が一体となり重点地域での早期からの受入強化等を推進

6 在外教育施設の機能強化

将来の日本を支える「グローバル人材の原石」である在留邦人の子の学びの保障、国内同等の学びの環境整備、在外教育施設ならではの教育の充実を推進

1-3 AG 5（2017～2022年） AG+（2022～2027年）について



- AG 5（Advanced Global Five）

在外教育施設における高度グローバル人材育成拠点事業

2017年度～5年間 文部科学省が公益財団法人海外子女教育振興財団に
委託

在外教育施設における「グローバル人材育成」という視点からの実践
の分析を通して、新たな在外教育施設の教育モデルを構築する5つの
プロジェクト

- 2022年度より AG+（プラス）として7つのテーマで継続

【1】本事業の概要・プログラム

本事業では、以下の5テーマに関する実践的な研究開発を行っています。これらの研究の成果は、在外教育施設や国内の教育機関にその成果を発信・普及させるための体制整備に活用されます。

（1）教育改革プログラム

- 研究テーマ1．グローバル3.0時代の探究的な学びの開発
- 研究テーマ2．日本人学校における複言語環境を活かしたグローバル言語能力の伸長

（2）教育DX推進プログラム

- 研究テーマ3．日本人学校におけるインクルーシブ教育システムの開発
- 研究テーマ4．多様化する補習授業校のニーズに対応したグローバル人材育成のためのプログラム開発と補習授業校間のネットワークの形成

（3）グローバル連携拠点形成プログラム

- 研究テーマ5．日本人学校の日本文化発信・交流に向けた教育プログラムの開発

（4）国際交流文化発信促進プログラム

- 研究テーマ6．国際交流文化発信促進プログラム

（5）日本人学校等の教育基盤等状況に関する調査研究

- 研究テーマ7．日本人学校等の教育基盤等状況に関する調査研究



研究テーマ1．グローバル3.0時代の探究的な学びの開発・新たなグローバル時代に必要な資質・能力の育成
～探究学習プログラム開発・特色ある英語教育・幼小連携プログラム開発等を通して～

研究テーマ2．日本人学校における複言語環境を活かしたグローバル言語能力の伸長

研究テーマ3．日本人学校におけるインクルーシブ教育システムの開発

研究テーマ4．多様化する補習授業校のニーズに対応したグローバル人材育成のためのプログラム開発と 補習授業校間のネットワークの形成

研究テーマ5．日本人学校の日本文化発信・交流に向けた教育プログラムの開発

研究テーマ6．国際交流文化発信促進プログラム

研究テーマ7．日本人学校等の教育基盤等状況に関する調査研究

～在外ならではの教育機会の保障を図るための教育基盤等に関する実態調査・分析～

新しい時代の補習授業校

テーマ4 補習授業校 グループの活動

テーマ4
新しい時代の補習授業校

AG+補習校サイト

2026.05.21

テーマ4：新しい時代の補習授業校

補習校

補習授業校

授業研究
学習活動計画

2026.03.26

授業研究—多様な子どもたちがともに力を伸ばす授業の計画と教材

補習校 授業計画

補習授業校

情報交換会

2026.03.20

情報交換会—タイムリーな情報と役に立つ資料

補習校

補習授業校

初任者研修会

2026.03.20

初任者研修会一次の授業に生かせる情報と技術

補習校

イベント
部会

2026.03.19

イベント部会

補習校 研究報告

ICT
部会

2026.03.19

ICT部会

補習校 研究報告

評価法
部会

2026.03.19

評価法部会

補習校 研究報告

OBOG部会
補習授業校にOBOGの力を！

2026.03.19

OBOG部会

補習校 研究報告

2026.01.17

未来につなぐ工芸品◆日本各地の工芸品を調べて発表しよう

補習校 授業計画

2. AG + OBOG部会の活動



教え子の皆さんの力を、
補習授業校に！



2-1 OBOG部会メンバー（共同研究/実施者）

- 亥本 房子 ヒューストン 補習授業校
- ウンターベルガー玲子 ウィーン補習授業校
- 大橋 由貴 ダラス補習授業校
- 後藤 豊実 クリーブランド補習授業校
- ダン奈津子 シカゴ補習授業校
- 浜田 佐知 カンザスシティ補習授業校
- 藻谷 容子 ポートオブサクラメント補習授業校

- 委員長： 東京都立大学 岡村 郁子
- JOES（海外子女教育振興財団）担当： 芝田進

2-2 OBOG部会のこれまでの活動

【目標】授業や学校全体のイベントにより在校生・教職員とOBOGのネットワークを作り、在校生のモチベーションアップと補習授業校のPRにつなげる。

- ① OBOGを対象としたアンケート・インタビュー調査を実施、補習授業校の教育の成果検証を行い、グローバル人材育成への役割を明確にする。（アンケート調査の結果はこちらから⇒）
- ② OBOGによる補習校へのサポート実践【本報告】
- ③ OBOGネットワーキングの構築
 - （１）卒業生のネットワーク作り
 - （２）OBOG部会インスタグラム等によるSNSでの情報発信



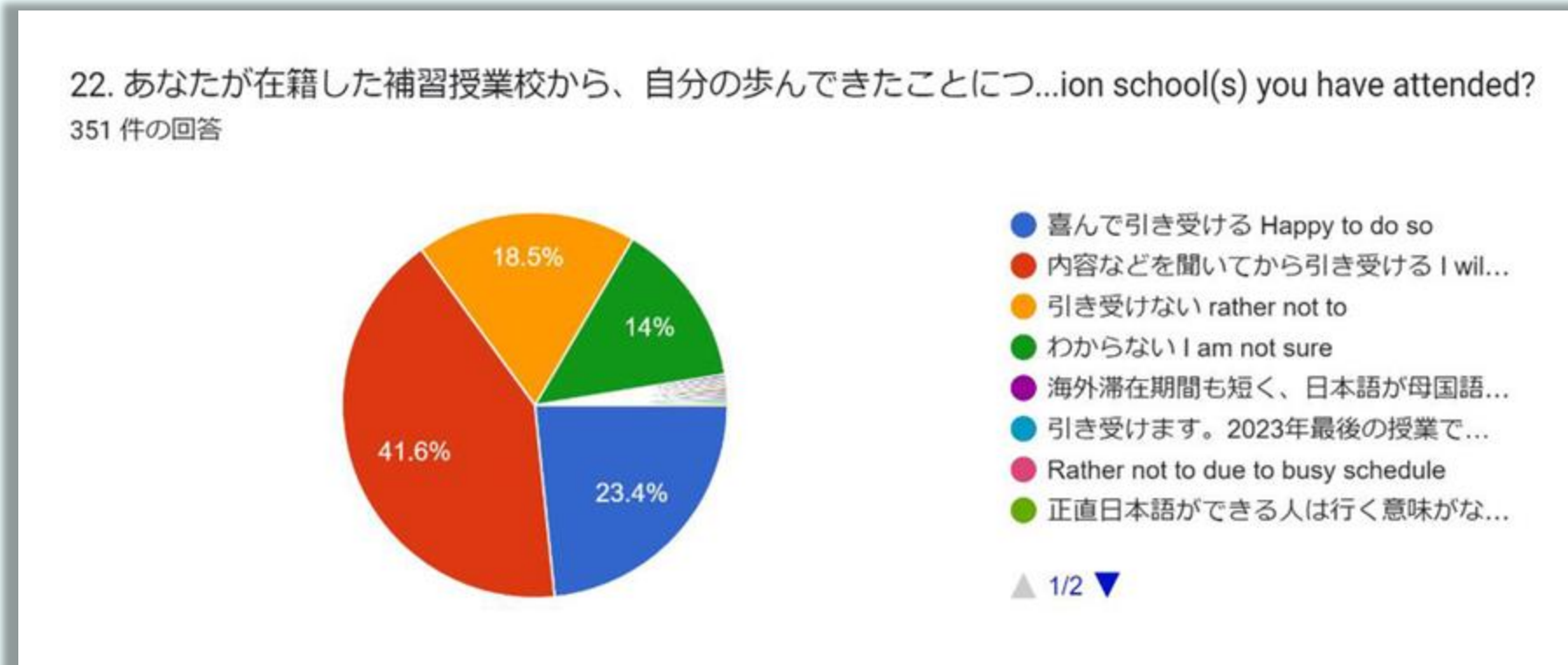
2-2 OBOG部会のこれまでの活動

① アンケート調査

【実施期間】 2023 年12 月17 日～2024 年2 月26 日

【回答数】 354 通

【自由記述】 補習校在籍者や教員へのメッセージ



海外子女教育振興財団
(JOES) ・ AG+プロジ
ェクトでは、補習校に通
った経験のある先輩方を
対象に、アンケート調査
を行っています。

実施期間：2023年12月17日～2024年2月20日
参加資格：補習校に通ったことのある人

ぜひ参加・
拡散をお願い
します!

② インタビュー調査 (2024年度)

アンケート回答者のうち、希望のあった約30名を対象に実施

2-2 OBOG部会のこれまでの活動

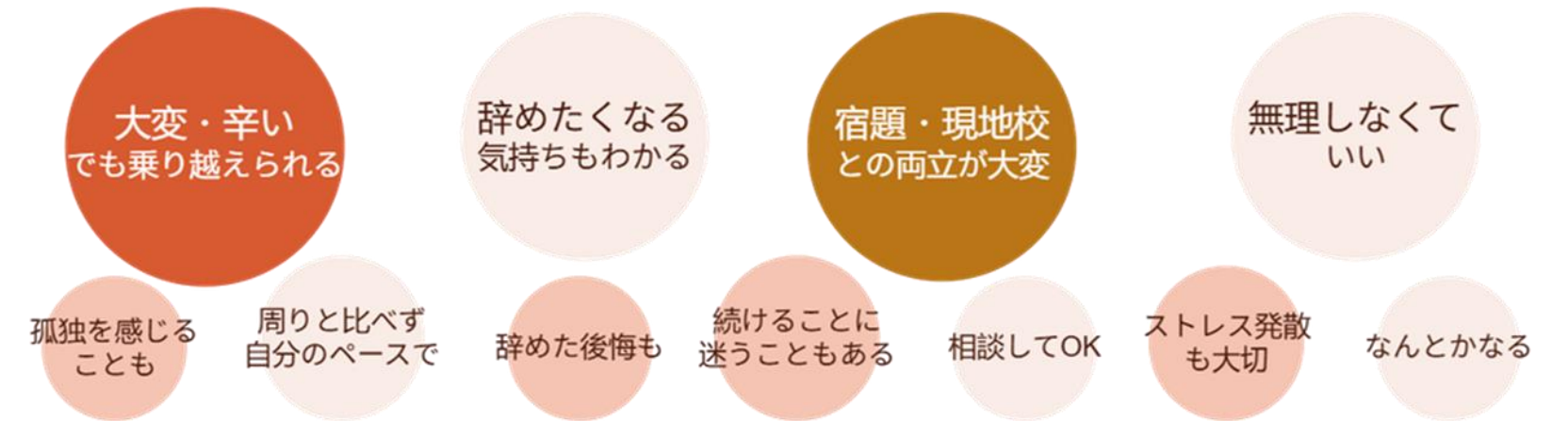
③ 補習校OBOGから後輩へのメッセージ

キーワード・テーマ分析

▲ ポジティブなメッセージ（多数派）



▼ 正直なメッセージ（少数派・でもリアル）



バブルの大きさ＝＞言及頻度
緑・紫・青系＝＞ポジティブ
オレンジ・赤系＝＞ネガティブ

MESSAGE FROM ALUMNI

補習校OBOGから 後輩へのメッセージ

「今」を頑張る皆さんへ。かつて同じ教室で学び、
葛藤し、そして今、社会で活躍する先輩たちからの贈り物です。

「大変なのは、 君だけじゃない。」

宿題、遊びたい土曜日、現地校との両立。
まずは、そのリアルな声から始めましょう。

直面している「リアルな苦悩」

週末の犠牲と孤独

「周りの子が休みの土曜日に、自分だけ学校へ行くのは苦痛だった。」

「宿題や勉強が多すぎて、現地校との両立に何度も嫌気がさした。」

「なぜこんなことをしているのか、意味を見失うこともあった。」

仲間が減っていく寂しさ

「友達が一人、また一人と辞めていき、自分だけが残される不安。」

「義務教育ではないからこそ、『辞める』という選択肢が常に隣り合わせだった。」

先輩たちが教える「続けるコツ」



友達に会いに行く

「勉強」ではなく「友達と遊ぶ」
ために行く。そんな軽い気持ち
が継続の秘訣です。



完璧を目指さない

宿題が全部終わらなくても、成
績が悪くなくてもいい。まずは
「通い続けること」を目標に。



先生に相談する

大変な時は遠慮せずに伝えて。
先生や親は、あなたの味方であ
り理解者です。

補習校の価値を象徴するキーワード

将来の武器 一生の宝物 ルーツ 選択肢

苦難と成長 自信 多様性 繋がる力 個性の確立 感謝

切磋琢磨 誇り

大人になって気づく、 あの時間の本当の意味。

今は分からなくても、必ず「やっててよかった」と思える日が来ます。

補習校がもたらす「圧倒的な資産」



無限の選択肢

日本語と英語。両方できることで、就職、住む場所、人生の舞台が世界中に広がります。

「武器」としての日本語

「世界トップレベルのカリキュラムで学んだ経験は、就活でも仕事でも最強の武器になった。」

「一生もの」の仲間

「10年経っても集まる。海外生活の苦労を共有した仲間は、代えのきかない宝物です。」

2-3 情報発信

SNS－OBOG部会インスタグラムなど

- 2025年9月、OBOG部会の公式インスタグラムアカウントを開設。各校のOBOG関連の情報もまとめて発信。OBOG関連イベントなどの情報の共有促進を期待している。
- 全世界の補習校OBOG、さらに過去・現在の世界の補習校関係者同士がつながる機会を増やす目的。



(https://www.instagram.com/jws_obog/)



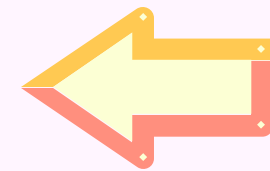
3 . OBOGの力を活用した 補習校での実践例

カンザスシティ・サクラメント・ヒューストン・
ダラス補習授業校の活動から

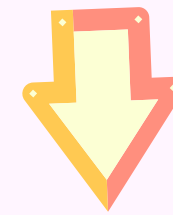
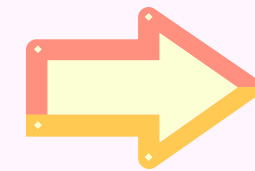
- 3-1 授業補助や行事の手伝い
- 3-2 在校生・保護者へのアドバイス・相談対応
- 3-3 OBOGのネットワーク作り
- 3-4 講話会
- 3-5 パネルディスカッション・進路指導

3-1 授業補助や行事の手伝い

カンザスシティ、サクラメント、ヒューストン、ウィーンなど、多くの補習校でOBOGがボランティアとして学校の授業補助や行事の手伝いとして活躍している。



1年生の授業で補助をする
高校生ボランティア達



3-1 授業補助や行事の手伝い

1年生の絵日記の宿題にコメントできるボランティアも育ってきた。

バイクやさんほんとカッコいいですね!

--- (ボランティア)

ガッキーのファッションほんと素敵ですね!

さんさんもせったいにフロミたいにじょうずになれる!

--- (ボランティア)

好きなことがあるのはいいですね!

しかも水かきばかりでいいので

いっせきにちよう!

--- (ボランティア)

あやうさんもおいしいからあけつくてよかったね!

からあけ作りおきかくなかったかな?

--- (ボランティア)

あさがあそびだてるのせいでよかったね!

--- (ボランティア)

やっほあきになってハロウィンのおせつになりましたね。

やあーおきつつにききもやっほいいですね!

--- (ボランティア)

3-2 在校生・保護者へのアドバイス、相談対応

ヒューストン



学び舎サポート

Posted 1/8/2026

「学び舎サポート」は、OBOG・保護者（元保護者）・教員（元教員）が相談員となり、新たに転入される生徒や保護者の皆さまをサポートする相談窓口です。学校生活や学習に関するご質問・ご相談がございましたら、上記をクリックして、フォームよりお気軽にお寄せください。



学校ウェブサイト「学び舎サポート」として
OBOGらによる相談窓口を設置。
2026年1月より、編入する生徒・保護者らからの
質問受付を開始。

カンザスシティ



日本からの中学部への編入生に対し
て、地元の現地校に通う補習校OBOG
やその家族を紹介。
編入生のアメリカ生活適応を支援。

3-3 OBOGのネットワーク作り

課題：卒業・退校後、誰がOBOG名簿を管理するのか。

ポート・オブ・サクラメント 補習授業校 同窓会サイト開設のお知らせ

サクラメント補習校 関係者、及び過去に在籍された方々へ

本校は2028年に50周年を迎えます。その長い歴史において、本校からは数多くの世界にはばたく卒業生を輩出してきました。またその過程では先生方を始め数多くの方からによる支援を受けて成り立ってきました。
そのような方々が所属する「同窓会」を設立することで、近々50周年を迎える本校からの卒業生たちへの情報発信の機会、また卒業生中心に情報交換できる機会を設けたいと思い立ちました。

同窓会の設立はサクラメント補習校 保護者有志で結成される「ポジティ部」でお手伝いしたいと思っています。現時点では、まずは同窓会の紹介、及び会員募集を始めたいと思っています。その後、当面は「ポジティ部」がサイト運営・情報発信を引き受けさせていただきますが、運営が軌道に乗りましたら卒業生有志の方へ運営を移管したいと考えております。

皆様のご協力、及びご登録をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。



サクラメント

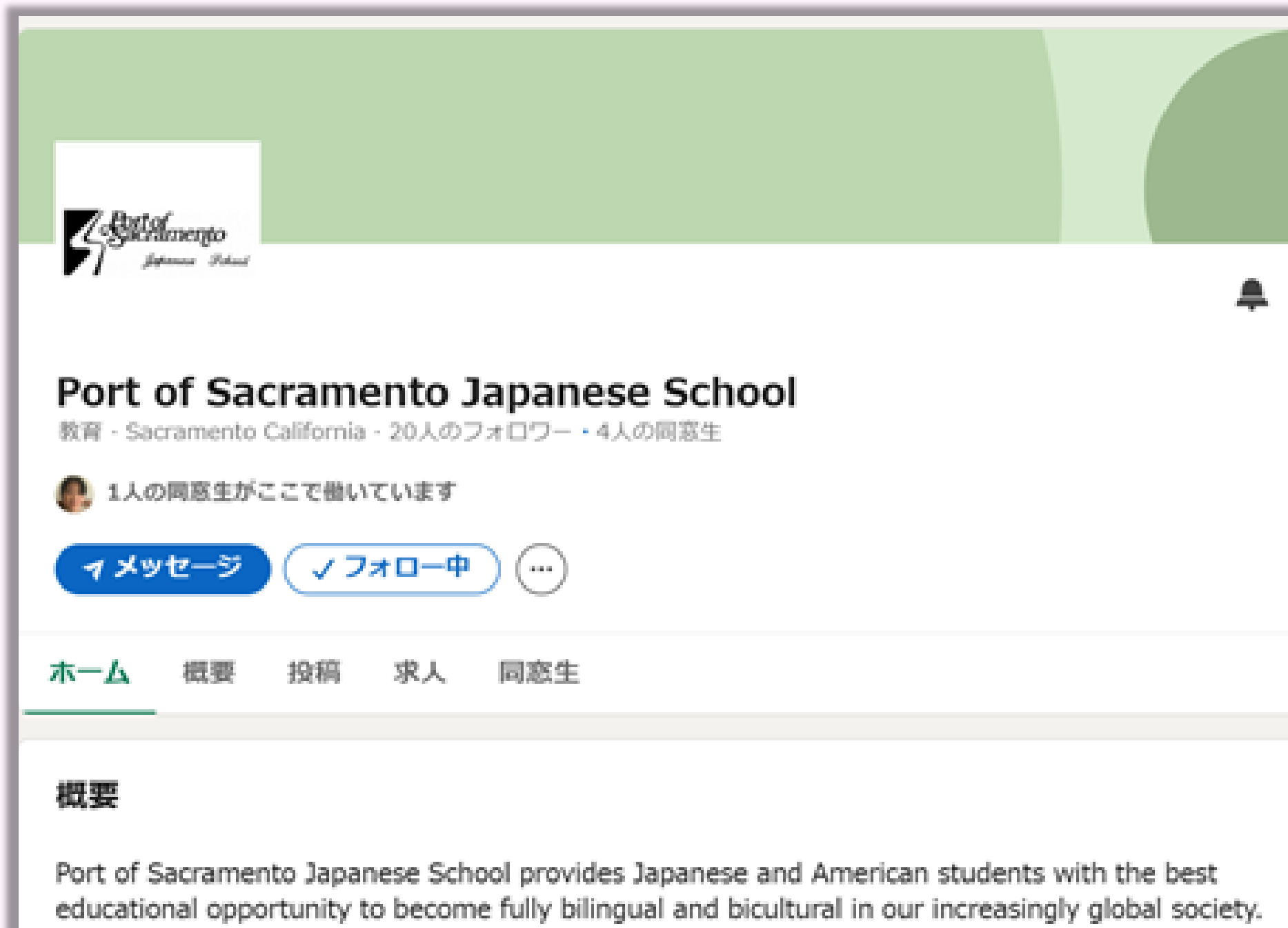
- 25年9月、同窓会発足・会員募集開始。
- 学校ウェブサイトのGoogle Formで会員情報を収集。
- 元理事（保護者）が運営・管理。
- 今後OBOG主導へ。

3-3 OBOGのネットワーク作り（続き）

課題：卒業・退校後、誰がOBOG名簿を管理するのか。

サクラメント（続き）

- LinkedIn（SNS）に補習校ページを開設（学校の教職員がLinkedInのアカウントを持っていれば無料で開設可）。
- OBOG、さらに過去・現在の補習校関係者同士がつながる機会を増やす目的。



3-4 講話会

実践

高等部 国語表現 × 進路指導のコラボ学習

- ダラス補習校OBOGによる講話会を年1回開催
- 国語表現と進路指導のコラボ学習として実施

ダラス補習授業校



2023年12月
歯科医師



2024年11月
米国公認会計士



2025年11月
客室乗務員



3-4 講話会

成果

講話会を通して得られた気づきとつながり



生徒から

- 将来を見据え、英語力やその他の能力を身に付けるための努力への意識が高まり、目標に向けて前向きに動こうとする姿勢が強まった。



- 補習校での友人関係を通して、人とのつながりの大切さに改めて気づいた。



講話者から



- 遠回りに思えた経験も振り返れば大切な力になっていて、その思いを後輩に伝えられたことが嬉しかった。



- 今後も温かなつながりを育みながら、来年の講話会につながる仲間探しにも協力していきたい。



ダラス補習授業校

教員から



- 生徒の準備・態度・運営は回を重ねて非常に良くなり、講話会は有意義で今後も継続したい。



- 講話内容は充実しており、生徒に将来を考えさせる良い機会になった。



3-5 パネルディスカッション・進路指導

実践

高等部 国語表現 × 進路指導のコラボ学習

ダラス補習授業校

- ダラス補習校OBOGによるパネルディスカッションを年1回開催
- 国語と進路指導のコラボ学習として実施

現役の大学生にオンラインで参加してもらい、
大学生活や高校生活におけるアドバイスを
送ってもらっている。

大学生活について

- ・授業や課題のこと
- ・サークルや友人関係
- ・留学や将来の目標 など



高校生活へのアドバイス

- ・学習の工夫
- ・時間の使い方
- ・進路選択の考え方 など



1 企画・準備

パネルディスカッションを開こう



2 大学調査



3 パネルディスカッションの実施



4 振り返り・まとめ



5 自分たちも大学生になったら協力したい



3-5 パネルディスカッション・進路指導

実践

高等部 国語表現 × 進路指導のコラボ学習

ダラス補習授業校

パネリスト

📅 2023年1月

👤 4名の大学1-2年生

📅 2024年3月

👤 3名の大学2-3年生

📅 2024年9月

👤 2名の大学2-3年生

📅 2025年10月

👤 3名の大学2-3年生

スライドサンプル

自己紹介（何年度卒）

- ・補習校在籍期間
- ・アメリカで住んでいた場所・ハイスクール名など
- ・中絶で高校編入した場合はその状況・編入試験など

名前
大学・学部・学科名

何年度（卒業していない場合は、卒業した年度の名）

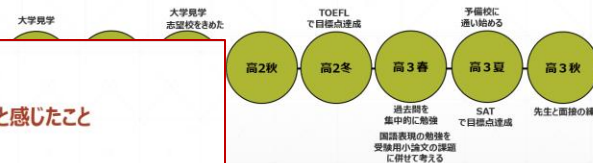
大学の様子—現在の生活等々

- ・大学のコース・大学自習etc.
- ・学部のこと

大学志望動機

- ・何故その大学を選んだのか
- ・決め手は
- ・受験することを決めたのはいつごろ？
- ・試験の様子・試験科目・面接・小論文

大学出願までの準備1（タイムライン）

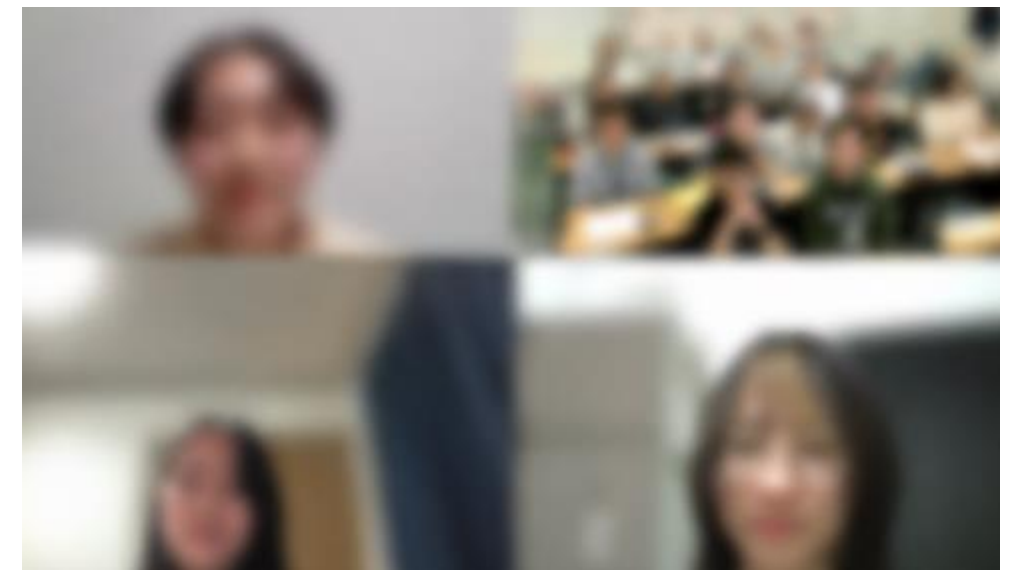


補習校でやっておいてよかったと感じたこと

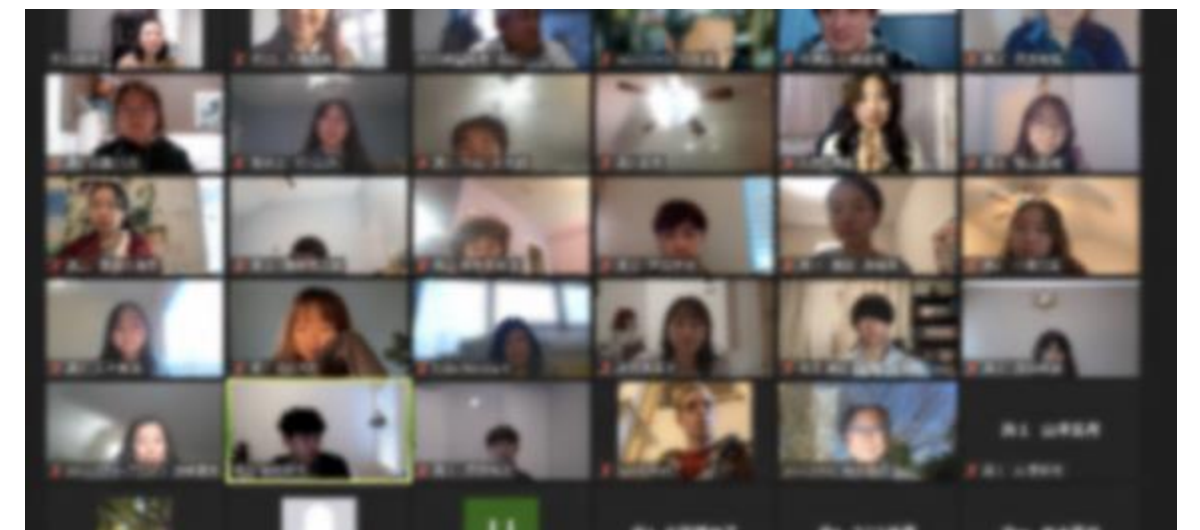
先輩からのメッセージ

- ・ここは必ず入れてください <(_ _)>

教室授業の様子



オンライン授業の様子



3-5 パネルディスカッション・進路指導

成果

パネルディスカッションを通して得られたもの

ダラス補習授業校



生徒から

- 実際に大学生活や進路を経験した人の話を聞くことで、ネットだけでは分からないリアルな情報や具体的な経験を知ることができ、とても参考になった。



- 補習校での学び（日本語・英語・課題・努力・目標設定）は、大学進学や将来に確実に役立つと実感し、今後も真剣に授業や課題に取り組みたいという意欲が高まった。



パネリストから



- 自分自身の経験や学びを在校生に伝えることで、少しでも今後の進路選択や学校生活の参考にしてもらえたことを嬉しく感じた。



- これまでお世話になった補習校に対して、自分の経験を共有するという形で恩返しができ、とても嬉しく思った。



教員から



- パネリスト自身もかつて在校生としてパネルディスカッションを経験しているため、在校生の視点や不安に寄り添いながら、実体験を踏まえた丁寧な準備を行ってくれた。



- 運営側としても回を重ねるごとに内容や進行がより充実したものとなり、大学進学後も卒業生と在校生のつながりを継続できるよう、交流や情報共有の工夫が積極的に行われるようになった。



3-5 進路指導

学内用Webサイトに進路情報を掲示

[illegible]

ダラス補習授業校

- 先輩方の進路を知ることで、
自分の進学先をより真剣に
考えるようになった



- 興味のある進学先に進んだ先輩と連絡を取りたいと感じる在校生が増えた。



- OBOGも喜んで後輩のためになりたいと申し出てくれるようになった。



4. 実践を通して見えてきたもの

- ・ 今後の展望



4-1 実践を通して見えてきたもの



在校生への効果

- ・進路や大学生活に関する具体的な情報を得る機会が増加
- ・将来を見据えた学習意欲/目標意識の向上
- ・補習校での学びや人とのつながりの価値を再認識



OBOGへの効果

- ・自身の経験を後輩に伝えることで自己成長や貢献を実感
- ・補習校への恩返しや継続的な関与の意識が向上
- ・OBOG同士のネットワーク形成の促進



学校への効果

- ・進路指導・キャリア教育の充実
- ・在校生と卒業生をつなぐ仕組みの構築
- ・補習校コミュニティの活性化と帰属意識の向上



4-2 今後の展望

1 補習校における持続的な人材循環モデルの構築

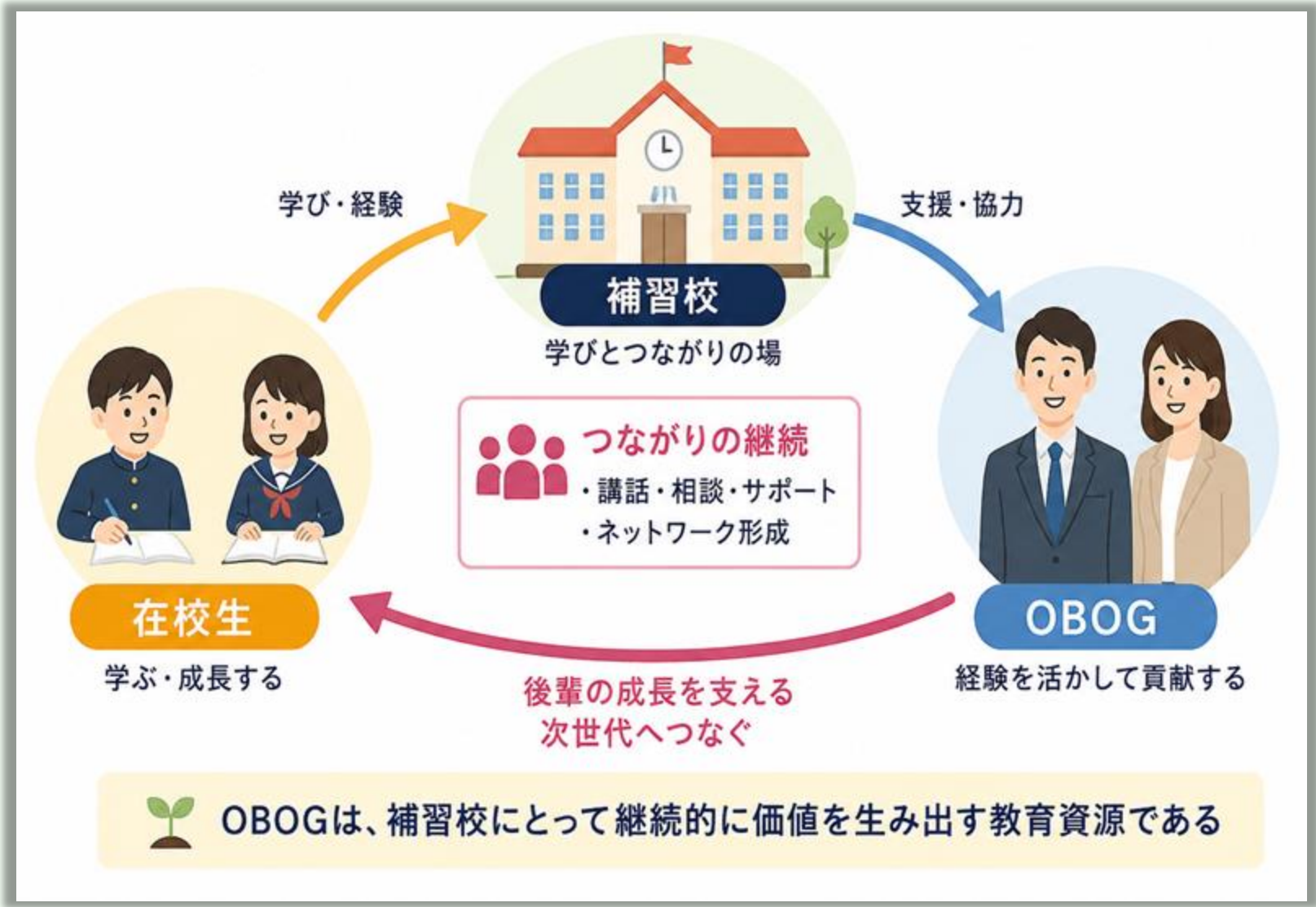
在校生 → OBOG → 支援者へと成長する好循環を形成

2 キャリア教育・進路指導の強化

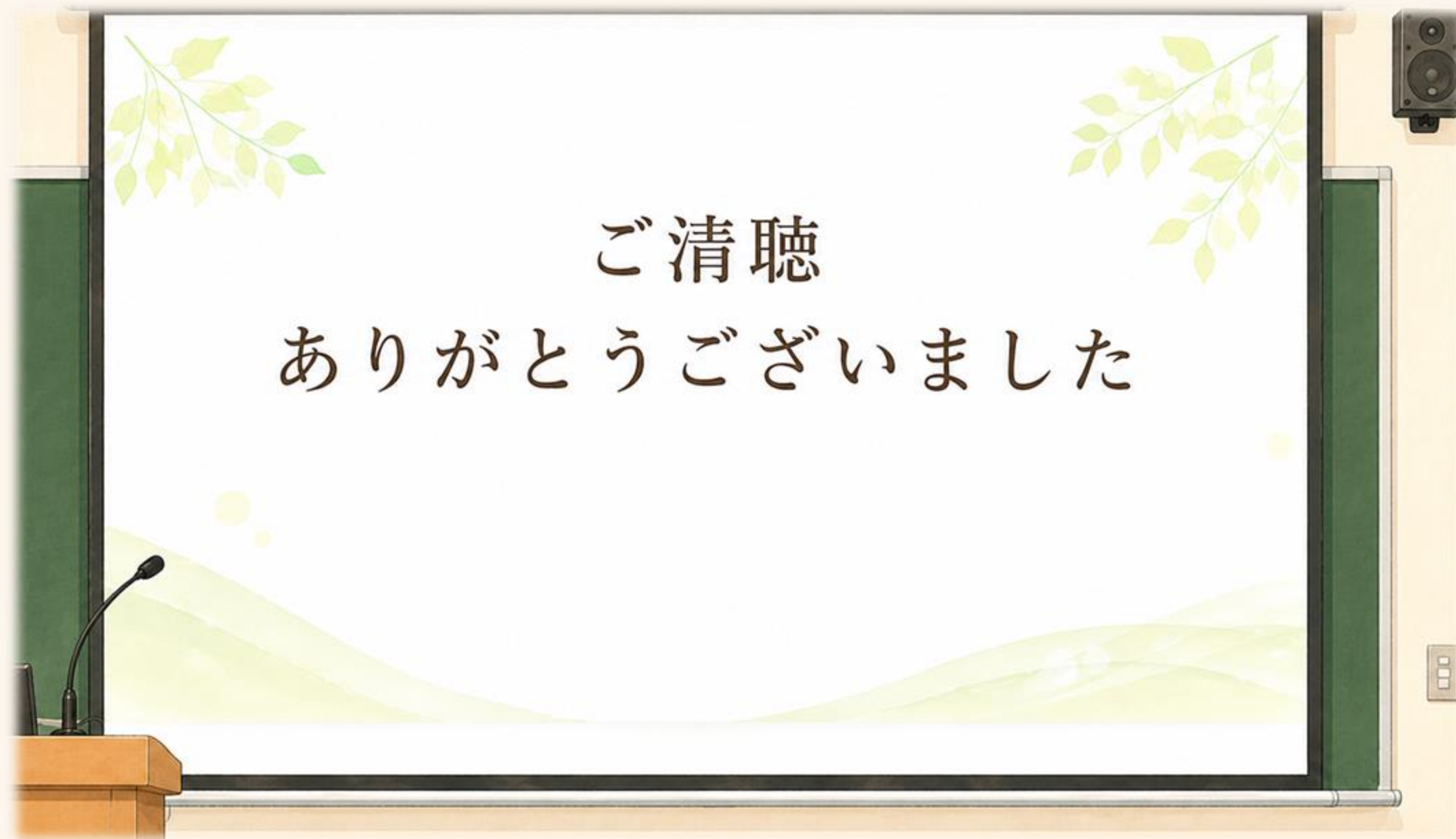
- OBOGによる講話会や相談会の定期開催
- 多様な進路モデルの提供

3 学校間連携への発展

- 各補習校のOBOGネットワークの共有
- 地域を超えた交流や情報交換の促進



OBOGを補習校の「卒業生」としてだけでなく「継続的な教育資源」と位置付け、在校生とつながり続けることで、互いに成長し合える仕組みづくりが重要



ご清聴

ありがとうございました

【参考文献】

- ・ AG+Plus 日本人学校・補習授業校応援サイト <https://www.ag-5.jp/agplus>
- ・ グローバル人材育成推進会議（2012）「グローバル人材育成戦略（案）の概要」
- ・ 文部科学省（2021）「在外教育施設未来戦略2030～海外の子供の教育のあるべき姿の実現に向けて～」 https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ukeire/1417980_00001.htm
- ・ 文部科学省（2022）「在外教育施設における教育の振興に関する法律」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/mext_01928.html
- ・ 文部科学省（2023）「せかい×まなびのプラン～留学・海外経験から日本を変える」
- ・ 文部科学省（2025）「海外で学ぶ日本の子どもたち」
- ・ 日本経済団体連合会（2011）「グローバル人材の育成に向けた提言」
- ・ 岡村郁子（2013）「海外経験によって得られた帰国高校生の特性とその関連要因―属性と家庭および在籍校によるサポートとの関連から―」異文化間教育 (38) 117-130.

＜謝辞＞本調査は海外子女教育振興財団が文部科学省より受託したAG+プロジェクトによるものです。補習校チームOBOG部会委員の亥本房子先生、ウンターベルガー玲子先生、後藤豊実先生、ダン奈津子先生、浜田佐知先生、実施にお力添え賜った海外子女教育振興財団の佐々信行先生、三井知之先生、芝田進先生、AG+運営指導委員長の佐藤郡衛先生はじめAG+事務局およびご関係各位、調査および実践にご協力いただいた補習授業校OBOGの皆様に深く御礼申し上げます。